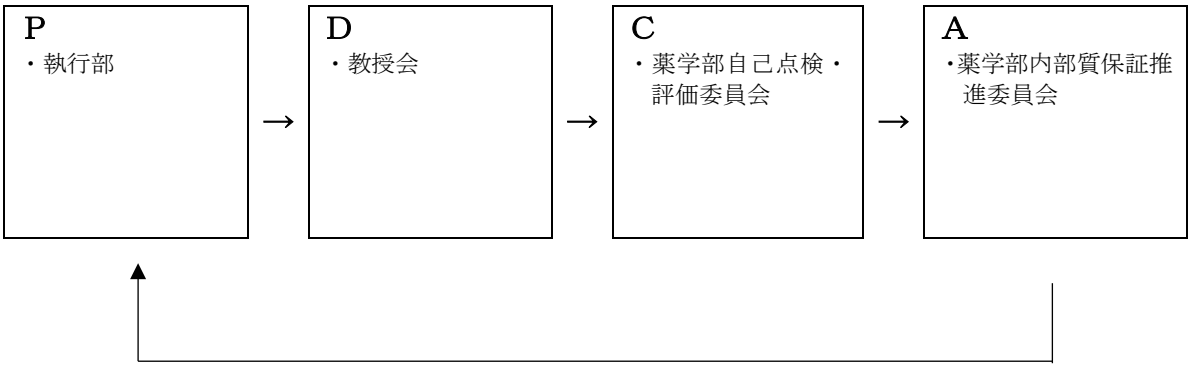
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　薬学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

令和７年２月 25 日開催の第２回薬学部内部質保証推進委員会において，薬学部自己点検・評価委員会からの報告に基づく提言として５項目を，ＩＲ委員会からの報告については２項目を提言として学部長及び執行部へ提案を行った。

提言の一つである「教育活動の検証」として，ＦＤ委員会では「学生による授業評価アンケート」結果の活用を検討した。従前から実施している「学生による授業評価アンケート」は，教員が自己の授業について客観的な評価を受ける機会を持つことにより，教育内容・方法の改善充実を図り，本学部教育の質的向上に資することを目的としているが，学生自らが授業改善を求める行動であり主体的な学びの動機付けとなる。このアンケート結果を受け，各教員は改善計画内容を「授業改善計画報告書」に記載する。令和６年度からは，授業評価結果の総合得点がＦＤ委員会で定める一定値以上を示した科目は模範講義と捉え，新任教員の研修に利用，一定値以下であった場合は「授業改善計画報告書」に記載された改善計画をＦＤ委員会が確認し，「教員による授業参観」の対象とすることとした。

教員は，これらの結果により自己振り返りを行い，ＦＤ委員会は各教員の改善に向けた取組

を支援する。一方で，授業方法や成績評価については，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める各能力の習得を客観的かつ適切に評価するために，平成 31 年度にアセスメント・ポリシーを制定し，さらに令和６年度からのカリキュラム改正に伴って現行のものへと改正した。しかし，現行のアセスメント・ポリシーでは，学修成果に対する到達度の確認及び評価が各科目レベルにとどまっている。今後は，このアセスメント・ポリシーに基づく学修成果の可視化を更に進め，ＦＤ委員会による各教員の改善結果とＩＲ委員会が検証する成績分布及び各段階でのアセスメント結果を学務委員会において集約・検証する体制の構築を目指している。薬学部自己点検・評価委員会では，それらの情報を精査し，改善が必要な事項を薬学部内部質保証推進委員会に提言する。このように，科目レベルの評価を積み上げ，学位プログラム全体としての有効性を組織的に点検・評価する仕組みを整えることで，教員レベルのＰＤＣＡサイクルを学位プログラムレベルのＰＤＣＡサイクルへと発展させ，本学部の教育活動を継続的に改善・推進していく方針である。また，ＩＲ委員会においては，執行部間の情報共有と速やかなデータ開示を図るため，各委員会が保有するデータを一つの Box に集約し，一元管理に向けた基盤整備を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

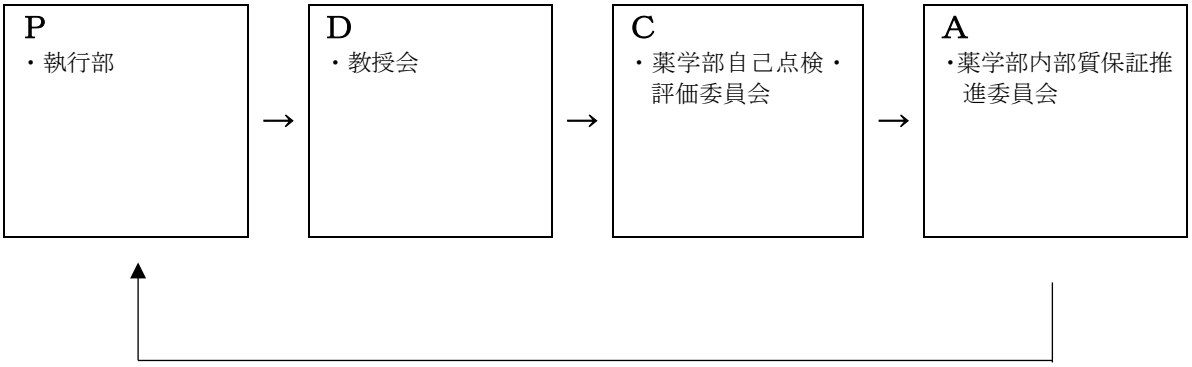
薬学部の内部質保証については，外部委員を委嘱するなど組織体制は整えられており，授業評価や授業参観を通じて教員個人レベルでの定期的な検証も行われ，授業改善計画報告書の提出により改善活動も実施されている。しかしながら，学部全体としての総合的な検証や，より効果的なＰＤＣＡサイクルの循環・活用については確認できない。例えば，薬学部内部質保証推進委員会が主体となり，他の関連委員会と連携しつつ，総合的な点検・評価を実施し，学部全体で改善状況を共有するよう改善が求められる。

基準２設問２に記載のとおり，薬学部内部質保証推進委員会が学部長及び執行部へ提言を行い，学部長からは適宜，各委員会へ諮問書が提出されている。各委員長は，諮問内容を精査し，委員会での議論を経て答申書として学部長に回答を行うとともに，答申内容に基づき各種取組を実行している。

今後は，取組の結果だけでなく，改善指示，検証内容，改善に向けた取組の進捗等，これら一連の状況を所管委員会に属さない教職員も把握できるよう検討する。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部では，教育研究組織の適切性について，学問の動向，社会的要請及び学生の収容定員充足率等の観点から，以下の枠組みで定期的に点検・評価を実施している。薬学部自己点検・評価委員会が，庶務課・教務課・学生課・研究事務課等から提供される上記指標に基づき，現行の１学部１学科（６年制）体制が適切に機能しているかを令和５年度及び令和６年度に点検し，課題を抽出した。点検結果は，薬学部内部質保証推進委員会に報告され，組織編成の妥当性について検証が行われた。令和７年度の外部評価実施に向け，その結果に基づき，組織改編や定員変更が必要と判断された場合は，執行部において具体的な計画を策定する体制を整えており，これらを定期的な自己点検・評価活動の一環として実施している。

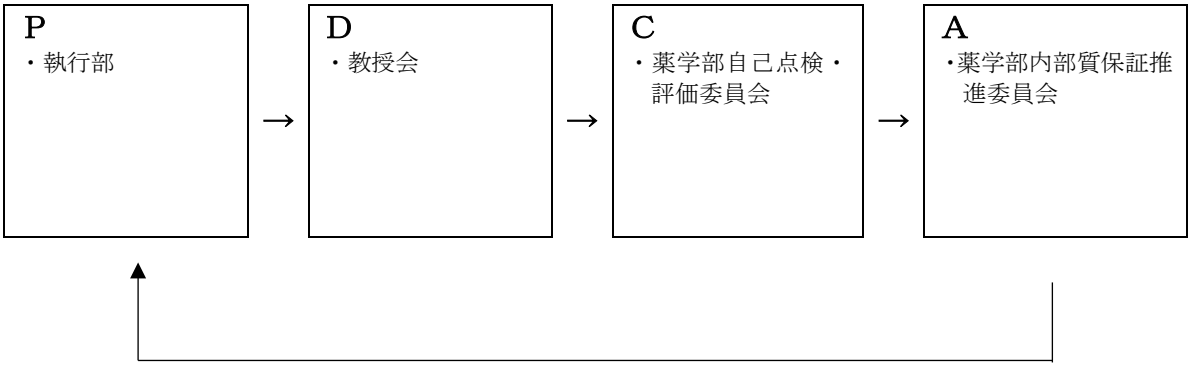
現状において，本学部は薬学を包括的に学び研究することを理念・目的とした単一学部・学科（薬学科）として，安定した教育・研究環境を維持している。令和６年度の自己点検・評価において，定員充足率が良好に推移していること及び本学部の卒業生が地域医療において継続的に求められていることを確認しており，現時点では学科の新設や改組の必要性はないと判断している。組織の大枠に変更はないものの，内部組織の質的向上を図るため，自己点検・評価の結果を受けた薬学部内部質保証推進委員会の提言に基づき，執行部が中心となって研究室間の教員配置の最適化や実務実習支援体制を強化するための組織内での役割分担の見直しを適宜実施しており，教育研究活動の活性化につなげている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

本学部では，教育課程の適切性及び教育方法の有効性について，学部の教育目的や学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成状況を検証するため，以下の枠組みで定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，アセスメント・ポリシーに基づき，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果の達成度を基準とする。そのため，令和７年度にアセスメント・ポリシーの見直しを実施した。具体的には，薬学共用試験ＣＢＴ・ＯＳＣＥの合格率，薬剤師国家試験合格率，各年次のＧＰＡ分布及び学生による授業評価アンケートの結果を主要な指標として設定した。点検の体制は，薬学部自己点検・評価委員会を核とし，実務レベルでのデータ収集・分析を担う学務委員会，ＦＤ委員会及びＩＲ委員会が有機的に連携する体制を構築している。点検のプロセスは，まずＩＲ委員会が，学年末実力試験やＧＰＡや国家試験結果等の相関分析を行い，教育課程の課題を抽出する。薬学部自己点検・評価委員会はこれらを総括し，令和５年度及び令和６年度に「点検・評価報告書」を作成した。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が当該報告書を検証し，教育課程の質向上に向けた具体的な改善を執行部に提言する体制としている。なお，令和７年度は外部評価機関（薬学教育評価機構）による分野別評価を受審した。

現在，ＦＤ委員会及びＩＲ委員会が中心となり，成績分布や授業評価結果，教員による授業参観結果及び卒業判定と国家試験結果の相関等について，データに基づく多角的な検証を開始している。一方で，これらの検証結果に基づく個別授業科目の見直しについては，現状では科目責任者の判断に委ねられている側面が強く，組織的な改善プロセスの確立が今後の重要な課題である。そのため，薬学部内部質保証推進委員会では，学務委員会がＦＤ・ＩＲ委員会の検証データを活用し，教育課程の質向上に向けた具体的な見直し（ＰＤＣＡの実行）を組織的に指導・統括する体制を整えるよう，学部長及び執行部に対して提言を行う。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

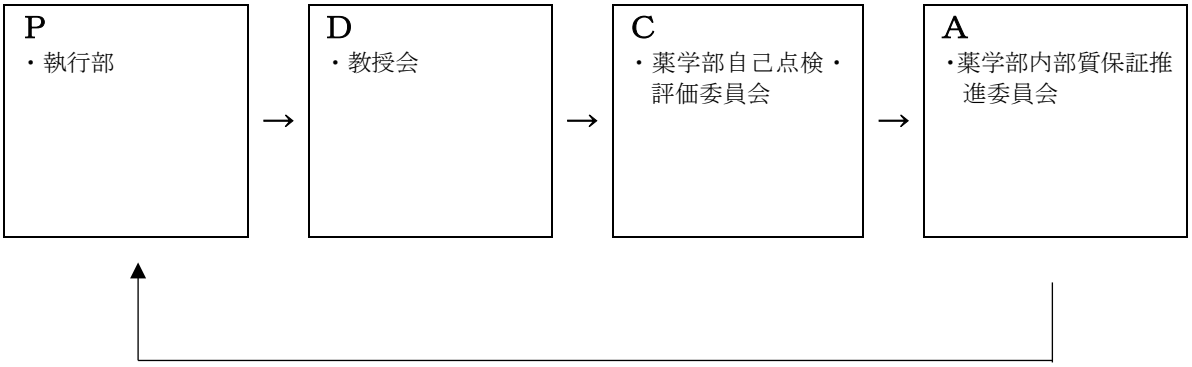
自己点検・評価の結果を教育課程の質向上に結び付けた具体的な事例は，以下のとおりである。ＩＲ委員会によるデータ検証の結果，２年次終了時のＧＰＡ値と４年次の薬学共用試験（ＣＢＴ）の合否に強い相関があることが判明した。これを受け，ＧＰＡ値に基づき早期に成績不振学生を抽出し，クラス担任による個別面談を強化する学修支援体制を構築した。上記検証結果を踏まえ，学修意欲の維持・向上と適切な学力担保を図るため，学務委員会での検討を経て，令和６年度より一定のＧＰＡ値を反映させた進級条件を導入した。令和６年 11 月のＩＲ委員会において，１・２年次の主要科目の成績評価分布を検証した結果，一部科目において到達目標の再調整が必要であると判断された。この結果は授業内容の高度化やアクティブ・ラーニングの導入など，教育方法の改善を促す指導体制を確立するように学務委員会に報告した。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

毎年，ＩＲ委員会において解析されたデータとともに，入学試験管理委員会において過去６年間の志願者数・受験者数・合格者数・入学者数を検証し，社会のニーズや受験生の動向を踏まえ，入学者選抜の実施方法や定員の見直しを行っている。

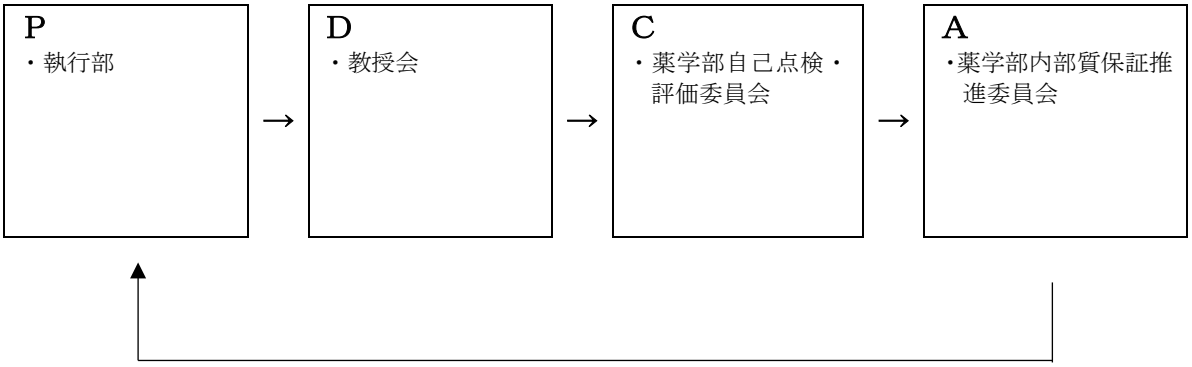
本学部を志望する層の受験生のニーズが年内入試にシフトしているため，令和８年度入学者選抜においては「総合型選抜」及び「学校推薦型選抜（付属高等学校等）付属特別選抜」を導入し，本学の教育理念と本学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に即した意欲ある入学予定者を確保した。同時に，入学者の学力が低下することの無いよう入学前教育の強化を図ることを目的に，年内入試による入学予定者に対し，入学前の学力確認試験を導入した。今後，導入した入試種別を含め入学予定者の学力を定期的に評価し，選抜方法の検討を継続する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部では，教育研究活動を適切に推進するため，毎年「学部等教員組織編成方針」に基づき，以下の体制で教員組織の点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「教員組織編制方針」への適合性，教員の年齢構成・職位構成のバランス，男女比及び教員一人当たりの学生数等を指標としている。教育研究活動の実施に必要な教員組織の編成方針として「学部等教員組織編制方針」（令和３年 10 月制定）を定め，学部長及び執行部がジェンダーや年齢の偏りにも配慮した教員配置計画を作成している。策定した計画に基づき，適切な教員の配置を行っている。薬学部自己点検・評価委員会は，専任教員の数，専任教員の年齢構成及び男女構成，専任教員の教育担当状況（担当する授業科目と担当時間）や採用・昇格実績に基づき，組織の適切性を点検・評価し，課題を抽出する。薬学部内部質保証推進委員会が点検・評価結果を検証し，次期教員配置計画や公募方針等について執行部へ改善の提言を行うことで改善・向上に努めている。また，一般社団法人薬学評価機構が実施する分野別評価（第三者評価）を定期的に受審することで，提言された内容を検証し改善を図ることで薬学教育プログラムの質保証に努めている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

ＴＡに対する体系的な研修が実施されていないことから，教育支援者としての基礎的な能力や倫理的配慮等を学ぶ機会が限定されており，教育の質の担保や学生支援の効果という観点では課題であり，改善が求められる。

公募以外の選考（推薦・招へい・昇格）においては，選考理由や基準の透明性及び選考過程の公正性をどのように担保するかが今後の課題であり，改善が求められる。

年齢構成の偏りに対する配慮は記述されているものの，具体的な年齢分布の把握状況や偏りを是正するための数値的目標・分析に基づく改善施策については言及がなく，今後の課題であり，改善が求められる。

実際の男女比の現状や過去の採用における具体的な対応実績，又は今後の改善方針についての記述が確認できなく，取組の実効性を判断するには情報が不足しているため，課題であり，改善が求められる。

教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われている点は，組織的な評価体制の構築に向けた第一歩として期待できる。しかし，現時点では具体的な評価方法や基準が確立されておらず，教育活動・研究活動・社会活動等の活性化に直結する仕組みとしては十分に機能していないため，改善が求められる。

令和７年度から，大学院生へのＦＤ活動の一環として，大学院学務委員会所管の下，ＴＡの事前研修として「授業補助業務実施に当たっての日本大学の教育について」の動画視聴及び「ＦＤガイドブック」の確認を実施し，教育支援者としての能力の向上を図った。

教員の採用及び昇任は，「日本大学薬学部教員資格審査基準」及び「日本大学薬学部教員候補者選考申合せ」に基づき行われている。研究実績，専門知識，教育能力等を多面的に審査した後，人事教授会構成員の投票により厳正に選出されている。教授，准教授，講師及び助教の人数のバランスに著しい偏りは見られず，教育研究活動を支える体制が構築されている。准教授以上の採用・昇格に当たっては，選考委員会を設置し，「日本大学薬学部教員資格審査基準」により定められた各分野における審査基準に基づき書類審査を行い，教授会においてプレゼンテーションを実施し選考結果を報告した上で，投票により決定していることから公募以外の選考方法においても，透明性及び公平性は保たれていると考える。

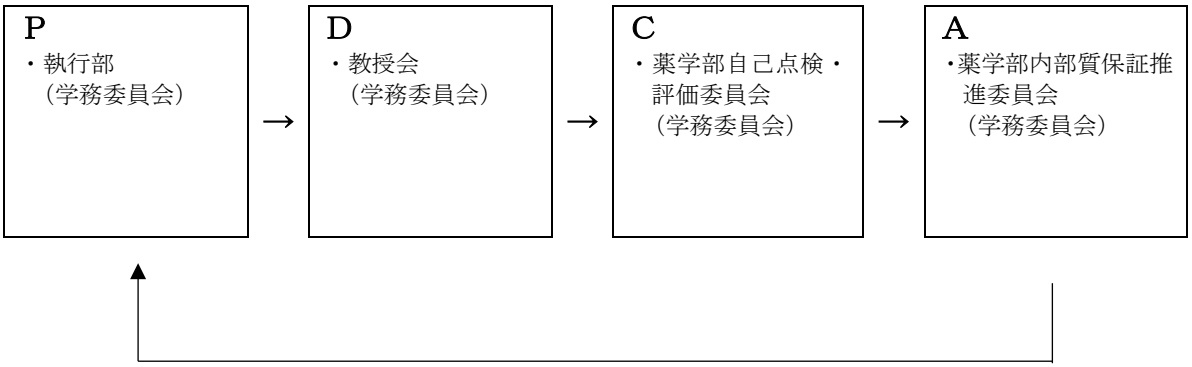
教員の年齢構成については，偏りに配慮した教員配置計画に基づき実施していることから，ほぼ均衡している。女性教員数の割合は教員全体で 20.6％であり，特に教授職では 7.1％にとどまっており，女性教員の絶対数が少ないこともあり難しい課題ではあるが，執行部，教授会，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会が連携し，現状を検証することで，改善に努めたい。

教育活動・研究活動・社会活動等への活性化を促す目的で，教員活動推進委員会において業績評価の検討が行われ，学部長へと提言した。その後，学部長より改めて，より具体的な評価案の検討が求められており，関係各委員会との情報共有によりその検討を行っている。

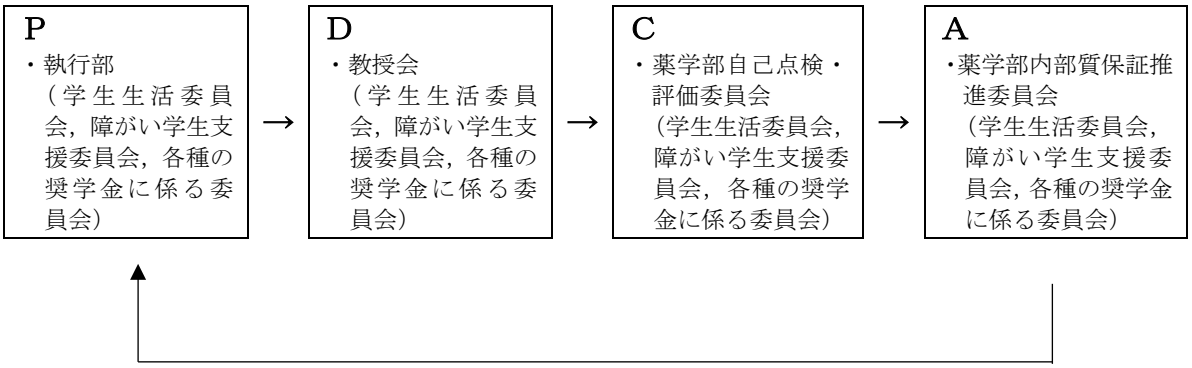
基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

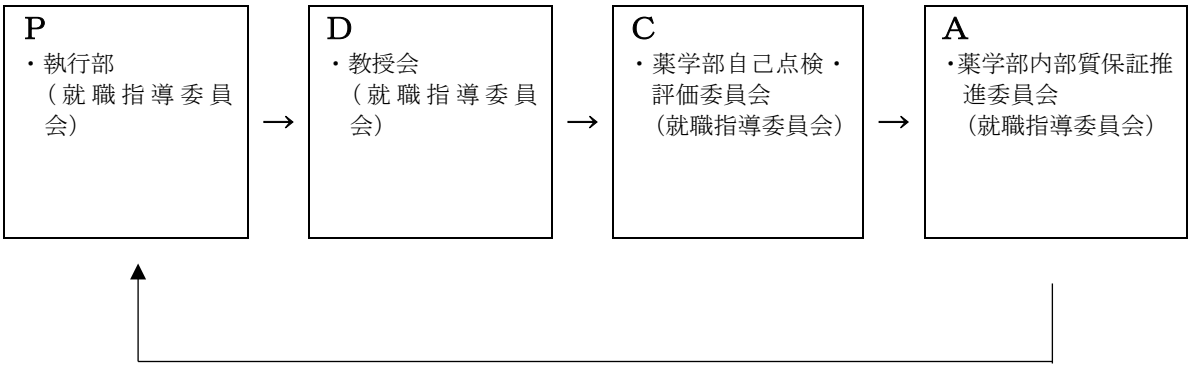
【学習面】



【生活面・経済面】



【進路面】



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。

・点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生支援に関わる事項については，学習面では学務委員会，生活面・経済面については基本的には総じて学生生活委員会（障がい学生に係る場合は障がい学生支援委員会，奨学金に係る場合は，各種の奨学金に係る委員会），進路面については就職指導委員会等の各委員会が，それぞれの担当分野における学生支援の状況を日常的にモニタリングしている。事案により，上記の各委員会が連携して検討・対応をしている。これら各委員会の活動報告に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が，学生支援全体の適切性を総括的に点検し，その結果を薬学部内部質保証推進委員会が検証する体制を整えている。

改善・向上を図った事例では，学生の意見箱による学習面，生活面・経済面及び進路面など多岐にわたる学生の意見を受けて，学生生活委員会で対応等を検討し，学生支援環境を恒常的に改善できるようにしている。

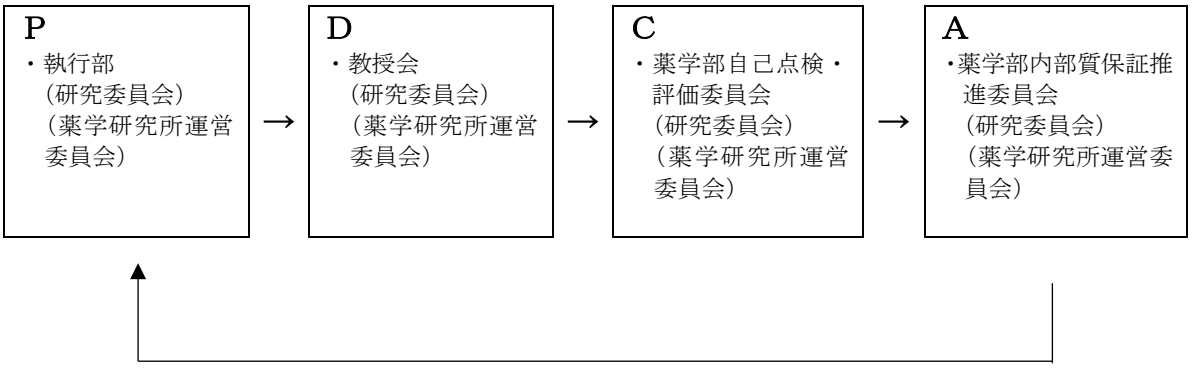
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

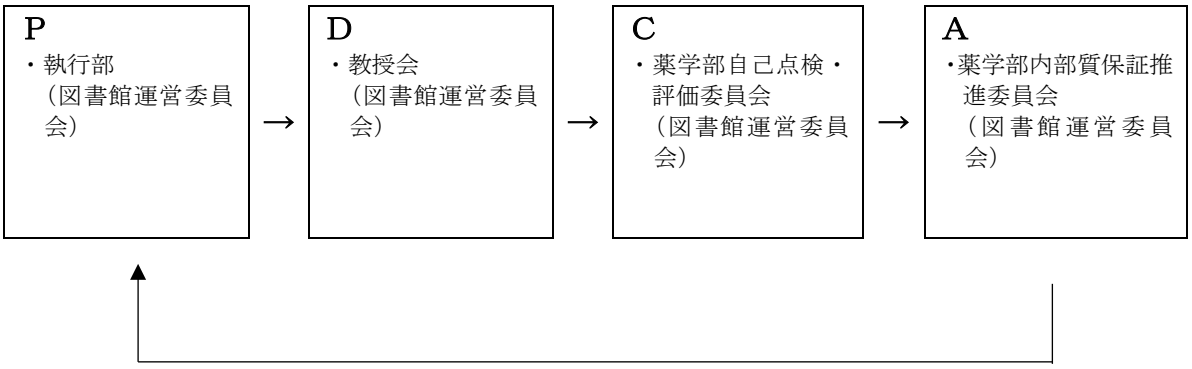
基準８ 教育研究等環境

1　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。

【施設・設備】



【図書】



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑩　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育研究活動を支える施設・設備，図書等の適切性について，薬学部では以下の枠組みにより定期的な点検・評価を実施している。点検・評価の基準は，「研究設備・機器の稼働率及び老朽化状況」「図書資料の充足率」等の客観的指標に加え，利用者アンケート等による利便性の評価を基準としている。点検の体制は，研究委員会，薬学研究所運営委員会及び図書運営委員会が各担当分野の点検を行い，その結果を薬学部自己点検・評価委員会が総括する。各委員会が

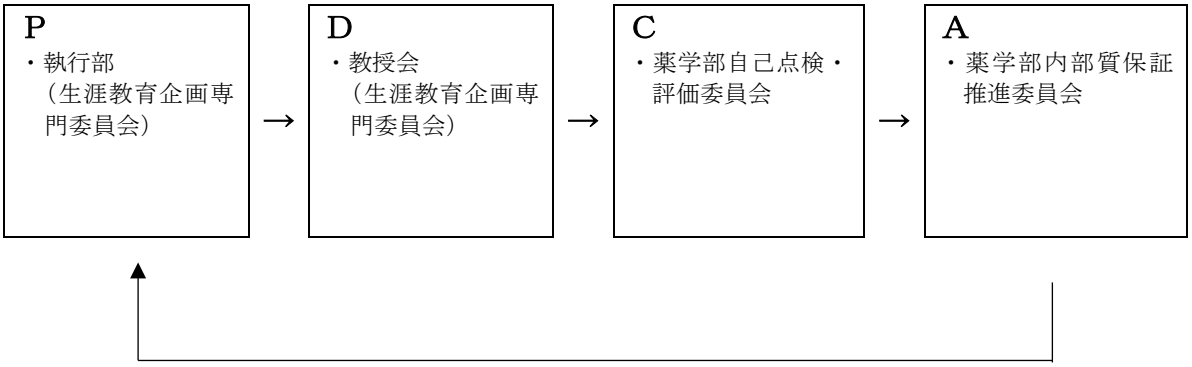
作成した点検結果に基づき，薬学部自己点検・評価委員会が現状と課題を整理した「自己点検・評価報告書」を作成する。これを受け，薬学部内部質保証推進委員会が内容を検証し，改善が必要な事項を執行部に提言する。執行部（各委員会）はこれに基づき次年度の整備計画を策定する。上記枠組みに基づき，研究環境の改善を図った事例として，令和５年度に実施した共同利用研究機器の再整備が挙げられる。令和５年度，研究委員会において共同利用研究機器の利用状況に関する再調査を実施し，利便性を加味した配置換え及び廃棄を決定，教授会での承認を受け整理を実施した。また，研究施設に関しては，高性能な研究装置等を備えた分子薬学研究センター（７号館）における共同利用実験室の利用について，令和６年度から保安・安全を加味した利便性向上のため，研究委員会及び薬学研究所運営委員会が主体となって対応を検討し，教授会における承認の上，一部，開放型の実験室管理及び利用者を限定した開錠管理型の電子錠システム導入に至った。引き続き，今後必要とされる機器の更新や研究施設の利便性向上について，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会との情報共有により，検討及び検証を行い，研究時間の確保や最新の研究活動を維持するよう図っていく。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

1　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



2　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

本学部の社会連携・社会貢献として，地域住民の健康支援を目的とした公開講座を年１回，本学部において開催している。令和７年度の参加者は，41 名（令和７年 10 月 26 日（日）開催）であった。また，薬草を通して薬への関心を深めることを目的とした薬草教室を年２回開催し，外部講師による講演会と併せて薬用植物園の一般公開を行っている。令和７年度の実績は延べ 170 名（第１回[令和７年５月 10 日（土）開催]40 名，第２回[令和７年 10 月 26 日（日）開催]130 名）であった。

このほか，船橋市と共同して地域住民の健康維持・向上を図る講演会を実施している。また，小・中学生を対象とした科学実験教室を船橋市内で開催し，理科教育への興味喚起と将来の科学者育成に寄与している。

これらの取組は，主として広報委員会が中心となって企画し，毎年度演題や開催場所，日程等を検討している。企画ごとに参加人数の推移や参加者属性，参加者アンケート結果などを分析し，次年度以降の内容や広報方法の見直しにつなげることで，継続的な改善・向上を図っている。これらの結果は，教授会に報告され，企画の妥当性や社会的効果について検証が行われている。また，地域への継続的な貢献として，学校薬剤師を務める教員が９名おり，学校環境衛生の維持・向上に加えて，オーバードーズの危険性など薬の適正使用に関する講話も行うことで，児童・生徒及び保護者への啓発に貢献している。

現役の薬剤師に対する貢献としては,「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」を本学部で開催し，会場の提供に加えてタスクフォースとして教員を派遣している。これらは，千葉県薬剤師会，千葉県病院薬剤師会及び関東地区調整機構との共同開催であり，過去３年間では，実務実習指導薬剤師養成ワークショップを令和３年度及び令和６年度に，アドバンストワークショップを令和５年度に本学部で開催し，それぞれ２名の教員をタスクフォースとして派遣することで，実務実習教育の充実に寄与している。

一方，日本大学薬学生涯教育講座は，地域医療を担う薬剤師の質保証向上を目的として，薬剤師認定制度認証機構の生涯研修プロバイダーの認定を受けて実施している。同講座は，５つのプログラムから構成され，一定時間数の受講に応じて認定シールを発行し，認定薬剤師の育成に努めている。これらの取組状況は逐次，生涯教育企画専門委員会に報告され，その後，薬学部自己点検・評価委員会及び薬学部内部質保証推進委員会にも情報共有されている。令和６年度の実績では,「最近のトピック」を年４回開催し延べ 146 名,「ファーマシューティカルケアの最前線」を年４回開催し延べ 60 名,「ブラッシュアップセミナー」を年１回開催し 25 名の参加があった（「薬剤師実践セミナー」は中止,「大学院講義受講コース」への参加はなし)。

これら共有された情報を基に，薬学部自己点検・評価委員会において点検し，薬学部内部質保証推進委員会において本学部が生涯教育のプロバイダーを取得している点は評価できるものの，受講者数及び認定薬剤師の発行数が十分とはいえないと評価を行った。そして，令和６年度の薬学部内部質保証推進委員会において，執行部に対して周知方法等の工夫が必要である旨の提言を行った。

その結果を受け，本学部公式ＳＮＳを活用した開催案内の発信など広報活動の充実を図り，受講者数の増加に向けた改善策を講じている。しかし，令和６年４月～12 月の延べ受講者数が 206 名であったのに対し，令和７年４月から 12 月 10 日現在では 166 名にとどまり，昨年度同時期と比較して約２割の減少となっている。以上のことから，現行の取組のみでは十分とはいえず，生涯教育企画専門委員会において，テーマ設定や開催形態，周知方法等について検討を行う計画を立てている。テーマについては，引き続き薬学的及び医学的ニュースやトピックなど社会的関心の高い内容での開催を行う。また，現在は日曜日の午後開催である「ファーマシューティカルケアの最前線」において，一定期間のオンデマンド配信により視聴確認を実施しながら受講者が受講しやすい時間帯での参加を促す予定である。さらに周知方法について，年度内の開催予定を当該年度の 4 月には公開することにより参加者が参加予定を立てやすくするなどの工夫を行い，引き続き検討・改善を進めることが課題である。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし